

1. 概要

- ・研究課題...GLIP 英語科目「英語 A1」 “Summer Intensive English”
- ・開催形態...大学構内での対面授業（研究講義棟 326 教室）
- ・日程...2021年9月6日（月）～10日（金）
- ・参加者...学生24名 / 担当教員1名（Professor Joe Ragsdale） / ティーチング・アシスタント6名

2. 実施内容

COVID-19 感染拡大を受け、昨年度同様、2021 年度も開催を予定していたイマージョン合宿は中止を余儀なくされた。その代替として、今年度の夏学期には、大学構内での対面授業として、とくにスピーキング能力向上に特化した集中講義、**Summer Intensive English** を開講することとなった。担当教員による短いレクチャーとガイダンスをふまえて、学生が様々なグループワークやペアワークをおこない、集中的かつ大量に英語のスピーキングを主体とした活動をこなした。また、最終日のグループ・プレゼンテーションに向けて、同じ地域に興味があるメンバーでグループを構成し、その固定グループでプレゼンテーションの準備をすすめた。

ティーチング・アシスタントが学生のグループに加わり、適宜ガイダンスを与えたり、ディスカッションが円滑に進むよう助けたりした。また、常にティーチング・アシスタントがグループに加わることにより、履修学生すべてが授業中、英語を用いたアウトプットをおこなうよう配慮した。

9月6日（月）

初日は、学生は文化をめぐる諸概念の定義を確認し、「アイスバーグ理論」についてディスカッションをおこなった。加えて、アメリカ文化における価値観や慣習について担当教員がレクチャーした。授業内活動としては、ペアワークでのスピーキング・リスニング演習、ノートテイキングとディスカッションの技法の修得が主なものとなった。すべての活動において、ティーチング・アシスタントが学生のグループに加わり、

適宜アドバイスを与えた。アメリカで生活した経験などがあり、アメリカ文化に親しみがある学生にとっても、改めてアメリカ文化における価値観や慣習のレクチャーを聞くと、多くの発見があったようだった。また、ペアやグループでのディスカッションで、お互いに意見交換する中で、担当教員による講義から得た知識をより深められているようだった。



9月7日（火）

2日目は、まず担当教員がアメリカナイゼーションと文化伝播についてのレクチャーをおこなった。学生は、世界におけるアメリカ文化の諸相についてのレクチャーを聞き、ノートを取り、ディスカッションをおこなった。初日同様、ティーチング・アシスタントがディスカッションに加わり、進行を補助しつつアドバイスを与えた。また、最終日のプレゼンテーションに向けての活動もおこなった。プレゼンテーションのうち、自分の発表担当部分を他のグループのメンバーの前でリハーサルするというものであった。調べてきてわかったことを発表し、その後、オーディエンスから質問やフィードバックをもらった。学生はみな積極的に質問や意見交換をおこなっており、最終日のプレゼンテーションに役立つ有益なフィードバックをもらえているようだった。

9月8日（水）



3日目は、学生が最終日におこなうことになるグループ・プレゼンテーションに向けたリサーチ内容をお互いにシェアし、ディスカッションやブレインストーミングをおこなった。プレゼンテーションでは、それぞれが選択した特定の地域におけるアメリカ文化・アメリカナイゼーションの問題を論じるという課題に取り組んだ。学生同士でリサーチ内容を検討しあった後で、ティーチング・アシスタントがそれぞれのグループに加わり、プレゼンテーションの準備をすすめた。

学生はみな、自分の意見を共有し、有意義な討論の時間となっていた。また、担当教員による文化の種類について、異文化交流についてのレクチャーも聞いた。学生は、その後、学生同士でレクチャーの理解度を確認し、文化についての知識をさらに深めていた。

9月9日（木）

4日目は、グループ・プレゼンテーションで各自が担当する箇所について、別のグループの学生向けにプレゼンテーションの練習をおこなった。学生は、別のグループの学生からフィードバックを受け取り、質疑応答の練習をおこなった。また、学生自身の「アメリカナイゼーション」の経験について掘り下げたり、プレゼンテーションの内容についてさらにグループ内でディスカッションをおこなう機会が設けられた。

9月10日（金）

最終日は、それぞれのグループがパワーポイントを使用し、特定の地域（東南アジア、フィリピン、ラテンアメリカ、東アジア、フランスとカナダ、中央ヨーロッパ、イタリア）におけるアメリカ文化、特にアメリカ文化・アメリカナイゼーションというテーマで、プレゼンテーションをおこなった。緊張している学生も多くいたが、これまで準備してきた成果を存分に発揮していた。その後、すべてのプレゼンテーションについて、学生同士で意見交換をおこない、また教員とティーチング・アシスタントがフィードバックを与えた。また、プレゼンテーションから得た知見について、それぞれの学生がエッセイのかたちでまとめ、授業終了後に提出した。



全日程をとおして、学生はスピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能を伸ばすためのさまざまなアクティビティに参加し、とりわけディスカッション、プレゼンテーションの技法を集中的かつ実践的に学んだ。授業内のやりとりはすべて英語でおこなわれ、ティーチング・アシスタントがつねに学生のグループに加わることで、すべての学生が適切なアドバイスを受けることができた。参加学生はきわめて高いモチベーションをもって授業に参加し、熱心に課題に取り組んだ。グループやペアでのディスカッションの機会が多くあったが、学生はみな積極的意見交換をおこなっており、知識を定着させるだけでなく、理解を深められるよう、努力していた。ティーチング・アシスタントは、語学上のアドバイスを与えるのみならず、学生を励まし、また模範を示すことで、英語で積極的に自分を表現することに対する心理的障壁をとりのぞくことに成功した。

2. 最終日の集合写真



以上

世界言語社会教育センター 特任講師
GLIP 英語科目コーディネーター 川本 渚凡